

演題番号：B6

黒毛和種肥育農場において呼吸器疾病を対象に治療後経過観察期間を設定した治療比較試験

○飯塚恭平¹⁾，佐々木家治²⁾，百溪隆志¹⁾，岩井幸菜¹⁾，宇都岳彦¹⁾，今井正士¹⁾，吉田信二²⁾，三谷 睦¹⁾

¹⁾ NOSAI ひょうご洲本淡路家畜診療所，²⁾ ゴエティスジャパン株式会社

1. はじめに：近年，米国の大規模農場では「抗菌剤の有効濃度が維持されている期間は症状があっても様子見として積極的な追加治療を行わない」という治療後経過観察期間（PTI）の考え方が取り入れられている。今回，黒毛和種肥育農場において持続型セフトオフル製剤を使用してPTIを設定した治療比較試験を行った。

2. 材料および方法：約200頭を飼養する黒毛和種肥育農場1農場で試験を行った。（調査1）事前調査として子牛市場から導入後約1ヵ月の健常牛12頭に対して病原体の遺伝子検査を行った。（調査2）子牛市場から導入後，呼吸器病症状を示した18頭に対し，9頭は試験区として初診時に持続型セフトオフル製剤を投与し，9頭は対照区として通常治療を行った。治療開始日と治療開始7日後の臨床スコア7項目の合計値，平均診療費および平均診療回数を試験区と対照区で比較した。（調査3）試験区と対照区で，治療開始日と治療開始7日後に病原体の遺伝子検査を行い，臨床スコアとの関連を調査した。統計処理はマンホイットニーのU検定を用いた。

3. 結果：（調査1）事前調査における病原体遺伝子の陽

性率は *Mycoplasma bovis* が 41.7 % (5/12)，*Mannheimia haemolytica* が 25.0% (3/12)，*Pasteurella multocida* が 83.3% (10/12) であった。（調査2）臨床スコアは治療開始日では試験区と対照区に差はなく，治療開始7日後において試験区が対照区に比べ有意に低く，症状の改善がみられた。平均診療費は試験区が9,367円，対照区が11,683円で2区に差はなかった。平均診療回数は試験区が2.3回，対照区が6.4回で試験区が有意に低かった。（調査3）病原体遺伝子の陽性率，遺伝子量ともに臨床スコアとの相関性はなかった。

4. 考察および結語：PTIは国内では繁殖と牛農場において有用であると報告されているが，肥育農場における報告はない。今回の試験では臨床スコアと診療回数において効果がみられ，労働コストや捕獲保定による牛へのストレスを削減しながら症状を改善できたことから，肥育農場においても有用である。持続型セフトオフル製剤の血漿中の有効濃度が約7日間持続することからPTIを7日間に設定したが，畜主側の不安などを考慮し，まず3日間程から始めて期間を延ばしていくのが良いと思われる。